



大雨の危機が来るのを一目で確認

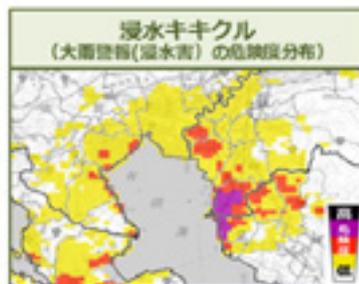
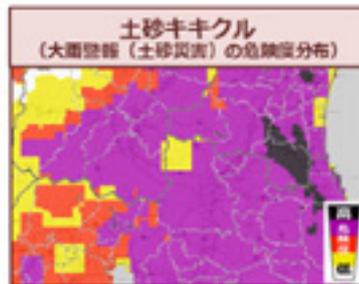
～「キキクル」の活用～

盛夏から秋にかけては、大雨が降りやすくなり、さまざまな災害が発生します。

大雨による災害は、地盤が緩んで発生する土石流やがけ崩れなどの「土砂災害」、短い時間に局地的な大雨による低い土地での「浸水害」、河川の増水や氾濫といった「洪水害」があり、それぞれ「大雨警報」や「洪水警報」を発表します。また、気象庁のホームページやスマートフォンなどでは、土砂災害、浸水害、洪水害発生危険度の高まりを地図上で5段階に色分けして示す「キキクル（危険度分布）」を常時10分ごとに更新しています。雨が強まってきたとき、大雨・洪水警報が発表されているときなど、どこでどのような災害の危険度が高まっているのか「キキクル（危険度分布）」で把握することができます。是非ご活用ください。

市や町が配布しているハザードマップや手引きなどに日ごろから目を通し、自宅の近くに川や傾斜地があるかなどを確認して、住まいの周辺に潜む危険を十分に理解しておいてください。

普段の備えと、警報・注意報などの気象情報を上手に活用して、気象災害から身を守りましょう。



問い合わせ 室蘭地方気象台 ☎0143-22-4249

住宅用火災警報器を設置しましょう

住宅用火災警報器の設置は、消防法で義務づけられています。町内の設置率は5月末時点で全世帯数の92.7%です。胆振東部消防組合消防署厚真支署では未設置の住宅への普及・促進に取り組んでいます。

火災を早期発見！被害拡大防止のために！

2階居室にいた居住者が、階段室に設置していた住宅用火災警報器の警報音に気づいて部屋を出た。階段の手すりに掛けていたタオルにストーブの火が引火していたため、消火器で消火した。早期発見による初期消火で、被害は壁面や手すりの一部を焼損したのみに留まり、火災を最小限に食い止めた。

住宅用火災警報器による火災の早期発見は、被害の拡大防止につながります。大切な命を守るため、住宅用火災警報器の設置や機器の点検をお願いします。



問い合わせ
胆振東部消防組合
消防署厚真支署
☎26-7119